

巻頭言

「演奏は嘘をつかない」

群馬県高等学校教育研究会音楽部会長

(群馬県立前橋西高等学校長)

廣 澤 秀 伸

平成29年度に計画されていた高教研音楽部会の各事業も、上田、大熊、清水、松村、清田、荻野各副部会長をはじめ各係の先生方のご尽力をいただき、無事終了することができました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。特に今年度から新たに選任された特別支援学校理事の先生方により、高崎高等特別支援学校で授業研究会を開催していただき、伊勢崎商業高校、桐生南高校と併せて年3回の授業研究会を開催いたしました。特別支援教育という視点からの音楽教育の研究は、音楽の持つチカラを改めて気付かせてくれるとともに、ユニバーサルデザイン授業の視点や教員と生徒の信頼関係の重要性などを再認識する貴重な機会となりました。また、夏季研究会では高校教育課島田聡指導主事による「学びの質を変える学習評価の工夫改善」と、特別支援教育課高橋玲指導係長による「本県における特別支援教育の現状と課題、発達障害の正しい理解」のふたつの講話は非常に示唆に富んだ内容でした。また第三回授業研究会と併せて開催された講演会では、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官の臼井学先生をお招きし、現在策定中の新学習指導要領の動向を見据えての「高等学校芸術科（音楽）の授業づくり」という演目による講話で、新しい学習指導要領でのねらいの意図を解説していただくとともに、午前中の鈴木先生の授業内容と関連してお話していただいたために、非常に分かりやすいものとなりました。一方、なかなか参加したくても授業の都合で参加できない部会員のために、音楽部会のホームページを立ち上げ、最新の記事を発信する準備を進めております。まだ試行版のため一般公開はしていませんが、次年度総会の席で改めてご報告したいと思います。

さて、多くの先生方が授業でのピアノ伴奏や範唱、部活動等で演奏または演奏のための指導をされる機会があると思いますが、私はいつも「演奏は嘘をつかない」という言葉を自分自身の戒めとしていました。同じ楽譜で伴奏しているのに生徒が演奏に乗ってこない、同じメンバーで同じ曲を演奏しているのに気持ちが伝わってこない、あれだけ練習したのに自分の中で感情がわき上がってこない、そんな経験をされたことのある先生は少なくないと思います。でも、演奏は嘘をつかないものなのです。この伴奏では歌いたい気持ちにならない、こんな範唱なら自分の方がうまい、生徒には注意するくせに自分もできてない、この指揮では演奏しづらい、指揮者から音楽が感じられない、等々。自分ではベストを尽くしているつもりでも、演奏すると相手には簡単に嘘がバレる。自分の努力不足を生徒のせいにするは簡単ですが、それは嘘を嘘で隠そうとするようなもの。嘘のない演奏は必ず良い音楽となり、人の心に届くものだと思います。「嘘」の対義語は「本当」です。本当とは正しい姿であり、心から思ったり感じたりしている気持ちです。言葉では嘘はつけても、演奏では嘘はつけない。でも、嘘で一番騙せないのは、自分自身なのではないでしょうか。音楽はそれくらい崇高で美しいものなのだと思います。

今年の個人演奏会では、二人の素晴らしい才能に溢れた若き音楽家に出会うことができました。それはまさに高校生として全く嘘のない演奏の塊でした。こういう若い才能を育み、羽ばたかせるのが音楽部会の努めだと思います。次年度もよろしく願いいたします。